

Profile

Wataru Kainuma

株式会社明天 代表取締役

1980年生まれ。福島県立福島高校、桜美林大学国際学部卒業。会津若松市のコンサルティング会社に勤めたあと、2005年に株式会社明天を創業、代表取締役に就任。福島県の会津で、地域の若者と大人をつなぐ数々のプロジェクトや、伝統工芸活性化に取り組んでいる。

スイッチの入った
あの時

じぶん
switch!

「どこを選ぶかよりも
そこで何をやるかのほうが
100倍大事だと思った」

switch!

文化祭が仕事の原体験

中学までは「マジめない子」だった私は、リベラルな校風の高校で変わりました。文化祭実行委員になって、先生と戦いながら、生徒全員を巻き込んで準備して、文化祭の最後にみんなで泣いて(笑)。たくさんの人を巻き込んで一つのものをつくりあげた体験は、今の仕事の原体験になっています。大学は第一志望の学校ではありませんでしたが、どこを選ぶかよりも、そこでどう過ごすかのほうが100倍大事だと考え、入学後は、日本とインドの学生の架け橋をするサークルやバンドの活動に没頭しました。

switch!

期限付きの会社員生活

大学卒業後は、会津のベンチャー企業を支援するコンサルティング会社に2年の期限付きで就職。当時は2年経ったら東京に戻るつもりでした。福島の出身といっても、私は福島市の生まれで会津若松市とは縁がなく、会津は田舎でつまらない場所だと最初は思っていたんです。転機は2

年めに訪れました。会津には400年の歴史をもつ会津本郷焼という焼き物があります。それをドイツに売り出すプロジェクトの本部に出向。人間的に魅力のある窯元さんたちに出会い、会津本郷焼の歴史を知って、「会津は奥深い! 地域こそおもしろい!」と思ったんです。それでこのまま会津を元気にするような仕事をしたいと考え、出会った人たちの応援を受けて起業しました。

switch!

会津を元氣にするために

現在は、会津の漆器職人と若手デザイナーのコラボレーション「會's NEXT(あいづねくすと)」プロジェクトや、地域密着・長期実践型インターンシップのコーディネートなどを行っています。起業のきっかけも今の仕事も、すべて人の出会いから生まれました。「気付いた人の責任」は、私が師匠と慕う川北秀人さんから聞いた言葉です。たとえば道に空き缶が落ちていたら、気づいたのに拾わなかった人も悪い、気づいた人にも責任が生じるという意味で、この言葉が起業時に背中を押してくれました。

社会起業家

貝沼航さん(30歳)

